

## 輸入感染症診療における薬剤師の係わり

藤澤 宗央

日本赤十字社成田赤十字病院 薬剤部



当院は成田空港に隣接する特定感染症医療機関として輸入感染症患者を診療する機会があり、また2007年より熱帯病治療薬保管機関となったことから、国内外の輸入感染症薬を保管している。

ICTとして感染に係る立場であることから、輸入感染症を特殊な事例としてではなく、通常の診療と変わらないような体制を整えることを目標に、薬剤師の立場から以下のようなことを行ってきた。

### 1. 治療薬の整備

以前は輸入感染症で使用される薬は国内未承認ということが多かったが、学会などからの要望によって、パロモマイシンやメトロニダゾール注などが承認されたことから、治療薬の最新情報把握、医師への採用確認を随時行ってきた。熱帯病治療薬研究班からの薬剤についても、運用整備、期限管理等を行っている。

### 2. 薬剤部内の体制整備

診療分野の専門化が進んだ医師とは異なり、薬全般に幅広く対応する薬剤師としては、症例が少なく、未承認薬も加わってくる輸入感染症について、困惑することが往々にある。このため、治療に対する情報を薬剤師向けに作成し、薬剤部内の体制を整えた。

現在、エボラに対する治療薬として注目をあびることになったファビピラビルの対応事例も加え、薬剤師の立場から行ってきた事を話させて頂く。

略歴：2004年3月 東京薬科大学薬学部 卒業  
2006年3月 東京薬科大学大学院 修士課程修了  
2006年4月 日本赤十字社成田赤十字病院 入職